

企画展 「墨伝う思い 書を通して知る文人・坪内逍遙」

会 期：1期 2020年12月12日（土）～2021年1月11日（月・祝）
 2期 2021年1月20日（水）～2021年3月7日（日）
 〈1期 21日間、2期 41日間〉

会 場：企画展示室

観 覧 料：無料

展示点数：1期 32点、2期 31点

入場者数：1,315人（1期 264人、2期 1,051人）



【内容】

加茂郡太田村（現美濃加茂市）出身の坪内逍遙（1859-1935）は、明治から昭和にかけて文学、演劇、教育など多方面に功績を残した人物として歴史に名を刻んでいます。逍遙が教鞭を執った早稲田大学、そして逍遙の故郷である美濃加茂市では、ゆかりの偉人として坪内逍遙を紹介してきました。美濃加茂市民ミュージアムは今年で開館20周年を迎えます。この節目の年、坪内逍遙が手掛けた多くの「書」の作品を通じて、偉人ではなく一人の人としての顔に焦点をあてます。

早稲田大学と美濃加茂市民ミュージアムでは逍遙が筆でしたための書の作品を多数保存しています。逍遙は青年期、名古屋にいた時分に書家につき、書を学んでいます。50歳の時には、東京大学の同窓生であり早稲田大学初代図書館長の市島春城の勧めで三恵五江に運筆法を学びました。以降は太い筆も使い、求めに応じて揮毫することもしばしばあり、執筆者に乞われて書いた逍遙の序詞が掲載された本なども刊行されています。中国の古典思想や漢詩の言葉などを表した力強い書作品のほか、自作の和歌を書いた短冊や歌に絵を添えた書画なども多く遺されています。それらは逍遙の趣味嗜好や文人氣質を浮かび上がらせるものであり、逍遙が心を通わせた人々との関係を証するものでもあります。

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館と美濃加茂市民ミュージアムで所蔵している逍遙の筆になる書、和歌、画賛などの作品を中心に展示します。逍遙の筆の妙技をお楽しみ頂きながら、逍遙が親しんだ枯淡の世界に思いを馳せ、親しむべき人としての逍遙の姿を垣間見ることのできる展覧会を目指しました。

この展覧会は早稲田大学連携企画として開催し、1期の展示内容は早稲田大学歴史館（2021年1月18日～2月22日）に巡回しました。

【関連事業】

□ミュージアムトーク（当館学芸員による展示解説）

12月12日（土）

①10：00～11：00 参加者6人

②13：30～14：30 参加者4人 合計10人

〔新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった事業〕

○ミュージアムトーク 1月9日（土）、2月7日（日）、2月23日（火）

【展示品】

1期

	作家名	作品・資料名	制作年	所蔵者
1	坪内逍遙	清修自守	1929（昭和4）年	館蔵（座馬井邸氏寄贈）

2	坪内逍遙	勝地勝友	1930（昭和5）年	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
3	坪内逍遙	李白 江上吟	1929（昭和4）年	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
4	坪内逍遙	経一番挫折 長一番識見 多一分享用 校一分志気	1930（昭和5）年	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
5	坪内逍遙	四面有山皆入画 一年無日不看花	1932（昭和7）年	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
6	坪内逍遙	游於藝	1926（大正15）年	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
7	坪内逍遙	乾坤百戯場	1928（昭和3）年	館蔵
8		演劇博物館開館記念品	1928（昭和3）年	館蔵（加藤精一資料）
9	坪内逍遙	『任興帖』 「天地間一大戯場」	1936（昭和11）年	館蔵
10	坪内逍遙	大震災即感の歌		館蔵
11	坪内逍遙	案山子		早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
12	坪内逍遙	縄簾之図	1931（昭和6）年	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
13	坪内逍遙	猿三番	1932（昭和7）年	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
14	坪内逍遙	自画書像	1932（昭和7）年	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
15	坪内逍遙	良寛弄琴		早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
16	坪内逍遙	寒山拾得		館蔵
17	坪内逍遙	双柿舎之図	1928（昭和3）年	館蔵
18	坪内逍遙	逍遙先生別荘之記 佐奈嘉羅帖	1925（大正14）年頃	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
19	坪内逍遙	さながら帖 上下	1925（大正14）年頃	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
20	坪内逍遙	大根干す	1932（昭和7）年	館蔵
21	坪内逍遙	和歌二首		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
22	坪内逍遙	竹生島にて		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
23	坪内逍遙	用者不分の疑相神		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
24	岡本かの子	『散華抄』 ＊逍遙の書「多調多彩」収録	1929（昭和4）年	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
25	岡本一平	新水や空 ＊逍遙の書「自我作古」収録	1929（昭和4）年	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
26	坪内逍遙	絶筆 至人不留行	1935（昭和10）年	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
27	坪内逍遙	絶筆 ふしぎにも	1935（昭和10）年	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
28	坪内逍遙	大器遅満		館蔵（加藤精一資料）
29	坪内逍遙	山椿の歌 山近水長	1922（大正11）年	祐泉寺
30	坪内逍遙	鈴木清二郎宛書簡		館蔵
31	坪内逍遙	行無所牽止無所梃		館蔵
32	坪内逍遙	「任興帖」 意長日月促 世短意常多	1933（昭和8）年	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

2 期

	作家名	作品・資料名	制作年	所蔵者
1	坪内逍遙	四面有山皆入画 一年無日不看花	1932（昭和7）年	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
2	坪内逍遙	李白 江上吟	1929（昭和4）年	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
3	坪内逍遙	経一番挫折 長一番識見 多一分享用 校一分志気	1930（昭和5）年	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
4	坪内逍遙	一筆淹留 面壁九年	1929（昭和4）年	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
5	坪内逍遙	□包宇宙無驕気	1928（昭和3）年	館蔵
6	坪内逍遙	経一蹶者長一智 今日之失未必不為後日之得		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
7	坪内逍遙	乾坤百戯場	1928（昭和3）年	館蔵

8	坪内逍遙	「天地間一大戯場」「古今来許多色脚」『任興帖』	1936（昭和11）年刊	館蔵
9	坪内逍遙	「意長日月促 世短意常多」『任興帖』	1936（昭和11）年刊	館蔵
10	坪内逍遙	寒山拾得		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
11	坪内逍遙	案山子		館蔵
12	坪内逍遙	熱海來の宮例祭の歌	1931（昭和6）年	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
13	坪内逍遙	「多調多彩」岡本かの子『散華抄』収録	1929（昭和4）年刊	館蔵
14	坪内逍遙	「自我作古」岡本一平『新水や空』収録	1929（昭和4）年刊	館蔵
15	岡本かの子 岡本一平	画賛 別府温泉		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
16	岡本一平	閑	1928（昭和3）年	館蔵
17	坪内逍遙	古詩送春曲之三句 尾上梅幸『梅の下風』収録	1934（昭和9）年刊	館蔵
18		序文 岸田劉生『初期肉筆浮世絵』収録	1934（昭和9）年刊	館蔵
19	坪内逍遙	文中有画・・・ 岸田劉生『演劇美論』収録	1930（昭和5）年刊	館蔵
20	坪内逍遙	わかばよく		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
21	坪内逍遙	冬深み／冬隣		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
22	坪内逍遙	存へば		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
23	坪内逍遙	石榴		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
24	坪内逍遙 上山草人	寄せ書き		館蔵（加藤精一資料）
25	坪内逍遙	弄瓶（複製）	1959（昭和34）年刊	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
26		坪内逍遙『逍遙選集』別冊第三	1927（昭和2）年刊	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
27		坪内逍遙『逍遙選集』第二巻	1926（大正15）年刊	館蔵（座馬井邨氏寄贈）
28	坪内逍遙	坪内逍遙書簡		館蔵（座馬井邨氏寄贈）
29	坪内逍遙	山椿の歌 山近水長	1922（大正11）年	祐泉寺
30	坪内逍遙	鈴木清二郎宛書簡		館蔵
31	坪内逍遙	行無所牽止無所 ^レ 杞		館蔵

【参考】

展示資料は、早稲田大学からは坪内博士記念演劇博物館蔵の画賛と書を選定し、当館の所蔵品からは、美濃加茂市出身の書家・座馬井邨氏より寄贈された逍遙の書コレクションを展示した。本展は早稲田大学との共催事業であり、当館1期の内容は早稲田大学歴史館に巡回した。2期は館蔵品と個人蔵の作品資料で再構成し、同時に企画展示室に隣接する美術工芸展示室で、現代の書と歌を鑑賞できるよう座馬井邨の収蔵品展を開催、時代を超えた広い意味での「文字の美」「言葉の美」「書の文化」

を伝えることを目的にした。

作品選定には、逍遙が詠んだ和歌などのかな字作品、漢詩などの漢字の作品を展示した。逍遙が幾度も書にした座右の銘「遊（游）於藝」「乾坤百戯場」「意長日月促」については可動壁を単独で使い、パネルなどで情報量を増やした。キャプションは読み下しだけでなく、誰かに書や言葉を贈るという行為の意味を考えてもらえるよう、意味内容や作品の来歴、エピソードを積極的に交えた。

書の展示は白黒で文字が多いため、空間が単調にならないよう心掛けた。キャプションでは題名のみ白黒反転させ、説明文には差し色を入れるなどし、パネルはデザイン性を特に重視し、色面を加えるように努めて書作品との対照を図った。



〔写真 1 1 期全景〕



〔写真 2 2 期全景〕



〔写真 3 2 期全景〕



〔写真 4 逍遙の座右の銘〕



〔写真 5 歌と書をめぐるエピソード〕



〔写真 6 歴史館での展示 全景〕

【アンケート結果】（全 34 枚）

選択設問から

①展示の資料・作品の見やすさ（配置、明るさ、空間など）にご満足頂けましたか？

・満足	23
・ほぼ満足	8
・ふつう	3
・やや不満	0
・不満	0
計	34

②展示の資料・作品の分かりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足頂けましたか？

・満足	21
・ほぼ満足	7
・ふつう	4
・やや不満	1
・不満	0
計	33

③展示の資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？

・満足	21
・ほぼ満足	9
・ふつう	3
・やや不満	1
・不満	0
計	34

④この展示を他の人に伝え、来館をすすめたいと思いますか？

・大いに	22
・少し	9
・どちらともいえない	3
・あまりすすめたくない	0
・すすめたくない	0
計	34

自由記述から

- ・書を見る事はあまり無いのですが、とても感動しました。
- ・かかしの絵がかすついて良かったです。
- ・逍遙先生の人柄がよく分かりました。
- ・また書を見て私も書いてみたいと思いました。
- ・今後も展示を楽しみにしています。
- ・字も大きくてわかりやすかった。
- ・坪内逍遙の作の証拠がわかるとよい。
- ・無料で見れて満足。
- ・王陽明の言の下線部の訓み下しにおいて

「今日之失未必不為後日之得」

未だ必ずしも後日の得とならず（んばあらず）←この部分が欠け

ています。

・美濃国加茂郡出身の小説家坪内逍遙氏が、長年大切にしていた書簡等の書類を数点ずつ展示し、多くの方々が其れに興味を持ちました。

・高校の先輩に習字の先生（書道家）がおられ、勧めてみたいと思いました。海外にいる長男も絶対に来たかったと感じました。（コロナ禍で来られないのが残念）

・興味ある人だったので、注意深く読めました。

・これだけ沢山の作品の管理と整理は大変なことを感謝します。これからも長く後世の人やこれから生まれてくる人にも永年続くことを望みます。

・郷土の文化人の偉大さを今後共永年続け日本文化を維持発展になることを希望します。

・岐阜県の文化向上の為尽くしておられる施設だと思います。これからもいろいろな企画を楽しみにしております。